

東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (②セ02-13-3/5)

目 的

東南アジア諸国等においては、文化遺産の保存修復に関する国際協力や域内連携の動きが近年活発化しているが、多くの文化遺産を抱え、国ごとの保護体制に関するレベルの差も大きい。このため、当該地域における保存修復事業への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化財の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

1. カンボジア

- 1-1. 建築測量・図化研修：前年度に続き、タネイ遺跡にて建築遺構実測研修を実施した。GPSとトータルステーションを用いた遺構実測と、CADによる図化作業までの基本的手順を技術移転することを目的とし、アプサラ機構、プレアヴィヒア機構、JASAのカンボジア人スタッフが参加した。第3回研修は2013（平成25）年7月22日～8月2日の2週間で実施し、上記各機関より計9名が参加し、地形測量の方法を中心に実習した。第4回研修は、2014年（平成26）年1月17日～24日のうち7日間で実施し、新規参加者を含む計9名が参加した。主に写真測量の技術を実習したほか、伽藍中枢部の平面実測・図化作業を基本的に完了した。
- 1-2. ICC出席：2013（平成25）年12月3日～4日午前にシエムレアプで開催されたアンコール遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）第22回技術会議に参加し、活動報告を行った。4日午後と同第20回本会議、5日には第3回アンコールに関する政府間会議にも参加し、保存と国際協力の現状や課題に関する情報収集等を行った。
- 1-3. 石造遺跡の微生物劣化に関する研究報告：本共同研究事業の総括として、2013（平成25）年1月にアプサラ機構と現地で共催した研究会の記録を含む報告書を英語で刊行した。

2. タイ

タイ文化省芸術局の要請にもとづく、バンコク市内ラチャプラディット寺院の扉に施された螺鈿装飾の保存に向けた協力として、2013（平成25）年5月7日～10日にかけてバンコクにて、同局や寺院関係者ほかとの協議、扉の現状調査と日本移送準備作業、類例調査、螺鈿を含む伝統工芸技術の工房調査等を実施した。

3. ミャンマー

- 3-1. 考古局職員招聘：文化省考古・国立博物館局の職員3名を日本に招聘し、同国での文化遺産保護の現状について情報収集するとともに、我が国の文化遺産保護関係の現場見学等も行いつつ意見交換した。
- 3-2. 研究会開催：2014（平成26）年2月18日に本研究所会議室にて研究会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」を開催した。上記ミャンマー国文化省考古局職員3名による報告のほか、東文研・奈文研の担当者3名が各分野における受託協力事業の内容を中心に報告を行い、関係機関担当者や関連分野の研究者も含めた情報共有を図った。研究会には所内関係者も含めて計43名が参加した。

4. その他

ベトナム、ブータン等において実施している外部資金事業と連携し、その効果を促進するため、関連の資料翻訳や研究会への参加等を行った。

刊行物

- ・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成25年度成果報告書』 東京文化財研究所 14.3
- ・『Study on the Biodeterioration of Stone Monuments in Angkor – Results of the Joint Research Project at Ta Nei Temple –』（英語）東京文化財研究所／APSARA機構 14.3

②国際協力・交流等 Area11

研究組織

- 友田正彦、川野邊渉、佐藤桂、楠京子、山下好彦、北川瑞季（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）